

複眼

米どころ東北の農業は

大きく変わろうとしている。山形県では米とサクランボ、西洋ナシなどの果樹を中心とした農業から野菜を中心とした園芸に生産基盤が移行しつつある。

山形県の園芸部門の産出額は2009年までは

漸減傾向にあったが、この年を境に2010年以降は増加し、2021年の産出額2337億円の中で野菜は455億円。2009年の318億円から1.4倍に増えている。「園芸大国やまがた」を掲げた野菜振興では県

内地域を気象や土壌条件などによって庄内、最上、村山、置賜の4地域に区分し、地域性・特性に着目した産地の育成・強化、加工業務用野菜産地の育成、高収益型野菜産地育成などに取り組み、21カ所の大規模園芸団地づくりを推進している。

ライスセンターに貯蔵家の負担軽減と作付け規模の拡大を支援するとともに農家の収益アップを

目指している。2019年4月、総務

ライスセンターはJA 山形県内で最も作付面積の大きい野菜がエダマ

積の大きい野菜がエダマ。置賜地区には西川町の地元・米沢藩主上杉鷹山の言葉「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も」を引用している。

エダマメと上杉鷹山公

山形エダマメ日本一産業費約4億円をかけて改

地化プロジェクトもその

一つ。県南地区の東置賜

郡西川町にあった米穀を

乾燥・調製する大塚ライ

スセンターは米の転作品

目として振興しているエ

ダマメとアスパラガスな

どを選果する施設に姿を

変えた。

修した施設には機械選果

設備と包装加工室などが

設置され、予冷庫が新設

された。

選果ラインには高性能

遠心脱水、全自動色彩選

別、手選別、自動計量、

自動袋詰め、金属検出・

ウエイトチェック、自動

ガス1.8となり、農

6割の77人が園芸ステ

ーションを利用している。

生産者から無選別のま

まコンテナで出荷された

エダマメはブラシ洗浄、

に天明の大飢饉に襲われ

た。しかし、学問を学ん

だ中から知恵を出し、領

民から餓死者を出さなか

った家訓を施設の一番高

の謙信の時代の三百万石

から幕府によって減らさ

れて十五万石まで落ち込

み、借金まみれになった上

に天明の大飢饉に襲われ

た。しかし、学問を学ん

だ中から知恵を出し、領

民から餓死者を出さなか

った家訓を施設の一番高

い所に掲げている。